

T

退院後も

T

つなぎます

A

あなたの

K

ところとからだ

平成22年1月号

地域医療連携室発行

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年もT・TAKメンバー同、頑張って地域医療連携に取り組んで参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

新春号 臨床検査科（検体検査部門） 新病院で活躍するメンバーに聞く！

検体検査部門の皆さん

新年早々お忙しいところありがとうございます。

Q) 病院の中での臨床検査科の仕事、役割についてお聞かせ下さい。

A) 臨床検査科は、簡単に説明すると病気の診断・治療に使われる検査を担当する部門です。

大きく分けて

- ◎ 検体検査 患者さんの体から取り出した材料（検体）で検査を行うもの。
検体検査は、更に病理組織検査に分かれます。

- ◎ 生体検査 患者さんの体に直接触れて検査を行うもの。

新病院移転を機会に、患者さんの利便性を追求した結果、生体検査部門（生理検査）を1階に配置いたしました。



今回は検体検査部門の紹介をさせていただきます。

検体検査部門は、患者さんから採取した血液・尿・便検査等から主に、貧血、肝機能、腎機能および脂質異常症や糖尿病などの検査を行います。また採血業務にも従事しております。

中央処置室、病棟等より提出された検体は検体搬送システム（ダムウェーター）により2階検体検査室に届きます。

検体到着後、検体処理を行い検査に入ります。

当院では以前より迅速検査に力を入れており、一部の検査を除けば検体到着後30分以内に臨床医に検査結果を報告しております。

Q) 検体検査部門のメンバーを紹介してください。

A) 検体検査部門は、佐渡主任を中心に共通の目的意識を持ち日々業務にあたっております。

今年久しぶりに新人が入社し、7人体制で頑張っております。

採血業務、糖尿病学習入院、人間ドック、NST 等他科との連携協力体制の充実に伴い忙しく業務にあたっております。

スタッフは各種学会に参加し、日本糖尿病療養指導士3名、NST 専門臨床検査技師1名および細胞検査士1名など認定資格も多く取得しております。

Q) 新人の抱負



入社して10ヵ月が過ぎようとしていますが、まだまだ分からないことも多く、覚えることが沢山あります。

先輩方から多くを学び、さまざまな分野を勉強していき幅広い知識を持った何でもできる臨床検査技師を目指して頑張ります。

またチーム医療の一員として他職種の方との交流もはかりたいと思います。

Q) これから目指す事

A) コスト意識を常に念頭に置き、必要な検査は取り入れ迅速で小回りの効く院内の検査基地としての検査科を目指して運営していきます。

その上で、専門性も重視し日々変化している医療業界に遅れる事無く、多くの情報を患者さんや職員に提供出来る様に努力していきます。

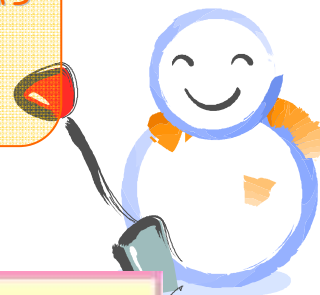
皆さんから親しまれる検査科を目指していますので、何でも相談にのりますので、検査科のドアをノックして下さい。

新春に相応しい想いをお話いただき

本当にありがとうございました。

今年は新病院も完成し、いよいよグランド・オープンも1月28日に迫って参りました。これまで以上に連携を密に行っていきたいと思っております。

次回は、病棟部門の紹介を考えています。楽しみに！



T・TAK新聞のバックナンバーは
播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧になれます。